

この音楽が答えです。 これがショスタコーヴィチ なのです。

GENNADY ROZHDESTVENSKY

百戦錬磨の“ロジェヴェン”。85歳の今も己の道を進む。

生前の作曲家と何度も創作を共にした
ショスタコーヴィチを今に伝える巨匠
ゲナジー・ロジェストヴェンスキー (読響・名誉指揮者)
Conductor: GENNADY ROZHDESTVENSKY

ヴィクトリア・ポストニコワ (ピアノ)
Piano: VIKTORIA POSTNIKOVA
小森谷 巧 (コンサートマスター)
Concertmaster: TAKEMI KOMORIYA

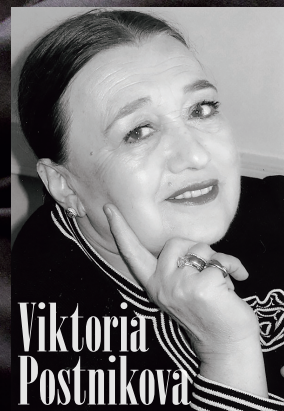
ショスタコーヴィチ: バレエ組曲「黄金時代」 作品22a
SHOSTAKOVICH: The Age of Gold Suite, op. 22a

ショスタコーヴィチ: ピアノ協奏曲 第1番 短調 作品35
SHOSTAKOVICH: Piano Concerto No. 1 in C minor, op. 35

ショスタコーヴィチ: 交響曲 第10番 短調 作品93
SHOSTAKOVICH: Symphony No. 10 in E minor, op. 93

読響日本交響楽団 第562回 定期演奏会

2016年 **9/26**(月) 19時開演 **サントリーホール**
S ¥7,500 A ¥6,500 B ¥5,500 C **SOLD OUT**
SUBSCRIPTION CONCERT No. 562
Monday, 26th September 2016 19:00 / Suntory Hall



Viktoria Postnikova

©Hikaru

読響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)
<http://yomikyo.or.jp/>

主催: 読響新聞社、日本テレビ放送網、読響テレビ、読響日本交響楽団
助成: 読文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)
協力: アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)

Think to the World
SUNTORY HALL

名匠ロジェストヴェンスキーが描く ショスタコーヴィチの魂の鼓動

GENNADY ROZHDESTVENSKY



ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー (指揮)
GENNADY ROZHDESTVENSKY, Conductor

85歳の今も第一線で活躍するロシアの大巨匠。1931年モスクワ生まれ。20歳の若さでボリショイ劇場にチャイコフスキーのバレエ「睡りの森の美女」を指揮してデビュー。以後、モスクワ放送響やボリショイ劇場の音楽監督を務めたほか、80年代にはソビエト国立文化省響を創設し、ショスタコーヴィチ、プロコフィエフ、シュニトケら自国の音楽を、ツアーや録音によって世界に広めた。その他、BBC響、ウィーン響、ストックホルム・フィルなどでも要職を務めた。オペラでは、ミラノスカラ座、パリ・オペラ座、英国ロイヤル・オペラなどで活躍。録音も数多く、400枚以上のCDをリリース。近年も精力的に活動しており、今年もシカゴ響やシンガポール響を指揮し、聴衆から熱狂的な拍手喝采が沸き起こった。読響とは1979年に初共演。以後もたびたび共演し、90年からは名誉指揮者の任にある。2001年秋には、勲三等旭日中綬章を受章。12年以來、4年ぶりの来日。

©Hikaru

ショスタコーヴィチの音楽は、作曲家が生きた20世紀ロシアの歴史を残酷なまでに反映している。そこには、一人の芸術家の自由な精神と独裁者の苛烈な権力との絶えざる闘争が聴き取れるのだ。個人的感情の吐露が社会的不正の告発に重なるかと思えば、権力者への称賛がいつしか屈折した自嘲に転じる。引き裂かれた自我が生み出した音楽を、説得力をもって演奏するのは容易ではない。

そこで巨匠ロジェストヴェンスキーの出番である。ショスタコーヴィチの交響曲全集をソビエト時代に録音したこの指揮者は、生前の作曲家と親交があった。社会主義体制下で創作の自由が大幅に制限されていた時代を二人は共に生きた。作曲家の秘められた思いと鬱屈した心情を代弁するのに、これほどふさわしい音楽家はいない。

バレエ組曲「黄金時代」は、1920年代の国際的なイデオロギー闘争と乾いたユーモアがスラップスティック風に合体した楽しい作品。インターナショナルでモダンな装いに彩られた音楽は、野心に満ちた青年作曲家の風貌を映し出す。

手の込んだ超絶技巧をソリスト——ピアノとトランペット——に要求する「ピアノ協奏曲第1番」は、優れたピアニストだった20代のショスタコーヴィチの自画像でもある。その無定見ともいえるハチャメチャな引用ぶりは荒唐無稽でありながら、名手ポストニコワの技巧が冴えわたるほどに、音楽はどこかシニカルでよそよそしくなり、きつと聴衆を困惑させるだろう。これこそショスタコーヴィチの真骨頂だ。

作曲家の“宿敵”でもあった独裁者スターリンの死後、間もなく初演された「交響曲第10番」については、すでに多くの分析、考察がある。ショスタコーヴィチは偉大な指導者を悼む代わりに、自身を取り巻く状況に対する極めて個人的な感情の発露を描いた。テロルと戦争、熱狂と死、勝利の行進曲とレクイエム……。第2楽章の凶暴なリズムと響きは「音楽による独裁者の肖像」という見方もある。

だが、これ以上の解説はやめて、音楽を聴き手に委ねよう。ロジェストヴェンスキーはそんな表層的な理解ではなく、もっと深いところから、歴史に翻弄されたロシア人の魂の鼓動を描き出してくれることだろう。



ヴィクトリア・ポストニコワ (ピアノ)
VIKTORIA POSTNIKOVA, Piano

幅広いレパートリーで世界各地の聴衆を魅了する名ピアニスト。モスクワの音楽一家に生まれ、1962年からモスクワ音楽院でヤコフ・フリエールに学ぶ。ショパン国際コンクール、リーズ国際コンクールなど世界的コンクールで入賞し、世界各地で演奏活動を始める。これまでに、バルビローリ、コンドラシン、ポルト、メニューィン、マズア、テミルカーノフ、そして夫でもあるロジェストヴェンスキーらの指揮で、ウィーン・フィル、ベルリンフィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ロンドン響、パリ管、ニューヨークフィル、シカゴ響、ボストン響などと共演を続けている。録音も数多く、チャイコフスキーのピアノ協奏曲全集、ムソルグスキーの作品集などで高い評価を得ている。読響とは1979年に初共演し、以後もたびたび共演している。

©Alejandro de Navidad

読響日本交響楽団 第562回 定期演奏会

2016年 9月26日(月) 19時開演

サントリーホール

¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C SOLD OUT

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

●東京メトロ有楽町線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

サントリーホール30周年
記念参加公演

Hibiki to the World

SUNTORY HALL

読響

■学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択してチケットをご購入いただけます(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)。*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド: チケットびあ 0570-02-9999、サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017